

(様式第4号)

## 上田市廃棄物処理審議会 会議概要

1 審議会名	第3回上田市廃棄物処理審議会
2 日時	平成29年10月30日 午後1時30分から午後3時30分まで
3 会場	上田地域広域連合上田クリーンセンター 4階 会議室
4 出席者	中村彰会長、金子幸恵副会長、井田宗広委員、熊谷唯委員、栗田たか子委員、桑原茂実委員、小林裕美委員、小柳繁弘委員、齊藤ゆり子委員、佐藤昭秀委員、城田浩靖委員、関川久子委員、西島義一委員、森本英嗣委員
5 市側出席者	山口生活環境部長、峰村資源循環型施設建設推進参事、小坂資源循環型施設建設関連事業課長、佐藤資源循環型施設建設関連事業係長、岩下リサイクル推進係長、津久井廃棄物指導係長、春原丸子市民サービス課生活環境担当係長、堀内真田市民サービス課長、北島ごみ減量企画室長、鈴木ごみ減量企画係長、田中ごみ減量企画室主任
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	平成29年10月31日

### 協議事項等

1 開 会 (山口生活環境部長)
2 会長あいさつ (中村彰会長)
3 議事
(1) ごみ処理基本計画 (素案) について
① 基本理念と基本方針について
・ 資料に沿い、北島ごみ減量企画室長から基本理念と基本方針について概要を説明
・ 以降、質疑応答
(委 員) 基本理念で「発電設備」と限定せず、「熱エネルギーを再利用する設備」にした方がいいのではないか。あわせて、「場内電力を賄い、温泉効果ガス削減」という箇所に「等」を追記した方がいい。
(事務局) 御意見を踏まえ修正します。
(委 員) 上田地域広域連合で計画している施設は、発電設備の導入が明記されているか。
(事務局) 明記されている。
(委 員) 下室賀の最終処分場はあと何年か。
(事務局) 90%ぐらい埋まっている。焼却灰を全部入れるとすぐに満杯になるので、埼玉県へ運びリサイクルしている。地元に対しては資源循環型施設ができるまでは最終処分場を延命化させていただきたいとお願いしており、理解していただいている。
・ 基本理念と基本方針について原案どおり承認
② 計画目標値の設定
・ 資料に沿い、北島ごみ減量企画室長から計画目標値の設定について概要を説明
・ 以降、質疑応答
(委 員) 不燃ごみの中には小型家電が含まれていると思うが、上田市では現在小型家電の収集をやっていない。これからも小型家電の対応は現状どおりか。
(事務局) 現状どおり。小型家電は民間業者に処理をお願いしている。携帯電話等のレアメタルを含む物に関しては、別で集めるようお願いしている。
(委 員) 数値目標について異論はないが、事業系の目標値としてリーマンショックを引き合いに出すのは抵抗がある。
(事務局) 今回の説明に限り私見として述べさせていただいた。
(委 員) KPI の設定のところで、剪定枝木収集の有無でリサイクル率が変わってくるが、上田市

は剪定枝木収集をやるか。

- (事務局) 燃やせないごみの収集を週一回やっているが、毎回出す人は多くないと思うので、回数を減らしてもいいのではないかと考える。つまり、燃やせないごみの収集回数を減らして、その分を剪定枝木の収集に回せる。周知徹底することで、御家庭の剪定枝木を焼却処分せずリサイクルに回せるので、リサイクル率が上がる。審議会の意見としてやるべきではないかとなれば基本計画に方向性を示していく。
- (委員) 私の利用しているごみ集積所では、燃やせないごみが出ていない日もある。出ても2袋程度。プラマーク付プラスチックごみの収集日と同じなので、他のごみ集積所のごみを私の利用しているごみ集積所に一時的に置き、それぞれ業者が連携して収集していく。月に一回になれば収集業者の負担が軽くなる。空いた分を剪定枝木収集に回して、長野市のように1~3月は不要で、かつ、毎月やらなくてもいいが、ぜひ剪定枝木収集をやってもらいたい。
- (委員) 剪定枝木は燃やせるごみで出してはいけないか。
- (委員) 野焼きをすると近所から苦情がくるので、燃やせるごみで出すしかない。剪定枝木はリサイクルできるという意識を共有できる方がいい。それぞれのごみ集積所に燃やせないごみが出されているか見て考えてもらいたい。
- (委員) 剪定枝木の推定量は。
- (事務局) 持込量は平成27年度実績が655トン。長野市の例を上田市に当てはめた場合2,550トンと推定される。
- (委員) 現状655トンに対して2,550トンは過剰ではないか。長野市を例にしていいか疑問。
- (事務局) 上田クリーンセンター及び丸子クリーンセンターで組成分析を行っていて、木や竹が入っている割合が過去5年間(平成24~28年度)平均で、上田クリーンセンターが14.3%、丸子クリーンセンター4.2%。これを収集量に当てはめると平成28年度実績で、上田・真田地域が約4,000トン、丸子・武石地域が約300トン、合計4,300トンとなる。そう考えると長野市の例に当てはめた場合の2,550トンもあり得る数字だと考える。
- (委員) 潜在需要のアンケート結果はあるか。
- (事務局) アンケートは実施していない。剪定枝木の収集をやるとすれば、上田市全域で始めると混乱するので、まずモデル地区で実施するのがいいと思われる。
- (委員) 剪定枝木に落ち葉は含まれているか。
- (事務局) 落ち葉も草も含まれている。
- (委員) 剪定枝木の収集は落ち葉も草も含めて実施するか。
- (事務局) 長野市の実施方法は確認できていないので、実施する際は確認する。
- (委員) 市街地では野焼きは一切できない。農村部では畑で処理できる。そういう部分が上田クリーンセンター及び丸子クリーンセンターの組成分析の結果に表れている。現在は燃やせるごみになっているので、剪定枝木収集があれば市街地はありがたい。
- (委員) 私は毎年軽トラ3台分を所有の山で処分している。それをごみ集積所に出した場合、逆にごみの量が増えてしまうのではないかと懸念される。
- (事務局) 自家処理を前提としている。自家処理できる方は自家処理をお願いしたい。
- (委員) シルバー人材センターでは枝木をリサイクル業者に運搬し処分しているので、安心してお金を払って依頼している。上田地域の処分業者は2社か。
- (事務局) 把握しているのは2社。
- (委員) 次回までに、上田市で剪定枝木収集を始めた場合、処分業者で受入れできるか確認をしてもらった上で、処理方法を把握し、市街地をモデル地区として実施する等、上田市の方向性を出してもらいたい。色々な方の意見を聞くと、剪定枝木が一番問題で、ごみ集積所に出された剪定枝木は焼却処分されてしまうので、ごみ減量を考えると出しにくい。
- (事務局) KPIの中で、リサイクルという切り口で剪定枝木をやればこういう数値になると提案したが、まだ収集体制や受入先については検討段階でない。次回になるか分からないがそういうことも含めて調査をし、最終的にリサイクルの数値がどうなのか問題になる。上田市とす

ると剪定枝木のリサイクルをすれば燃やせるごみの減量につながるので資料としてまとめたが、その先のことはまだ検討に至っていない。基本計画の中で方向性が定まったところで御提案申し上げる。

(委員) 剪定枝木収集の重要性は初回から言っているのですが、計画を作るときには方向性をきちんと決めていただきたい。

(委員) KPI の設定のところ、リサイクル率が「28.4% (H27)」から「25.0% (H39)」に減少しているの、理由を補足説明した方がいい。

(事務局) 承知しました。

(委員) 丸子地域でのごみの減量・再資源化に関する自治会説明会の開催状況は。

(事務局) 丸子地域では9月末現在で、26自治会中15自治会実施済。今後は来年3月末まで実施する方向で検討したい。

- ・計画目標値の設定について原案どおり承認

### ③目標達成のための施策

- ・資料に沿い、北島ごみ減量企画室長から目標達成のための施策について概要を説明

- ・以降、質疑応答

(委員) 「第1節 個別施策」とあるが、何に対する個別施策か。

(事務局) 基本方針に対応している。

(委員) ただ「ごみ処理場」とすると迷惑施設 (NIMBY) になってしまうので、「新たに資源を作り出す施設」とした方が、施設を受け入れる側もいいのではないかと。市民も剪定枝木が何にリサイクルされているか分からないのではないかと。例えば、ペレットストーブ導入補助で、剪定枝木がペレットとして循環する等の施策を考えていく必要があるのではないかと。

(事務局) 内容を検討して御提示したい。

(委員) 包装ごみの削減について、マイバックを持参するのはほとんどが女性なので、男性が持てる簡易なマイバックを開発できればいいのではないかと。特にコンビニでは毎回レジ袋が付く。

(委員) 店頭で男性のエコバック歓迎と盛り上げてもらいたい。

「ぱっくん」は上田市民でないとももらえないかと。

(委員) 上田市民には無料で配布している。上田市外の方には有料 (500 円) で配布している。ボランティアで苦勞して作成しているので、市外まで対応できない。

(委員) 目標値で「きゅうり1本」、「卵1個」というのは具体的で分かりやすいが、逆にそれぐらいなら自分は何もしなくていいと考えてしまうのではないかと。事業系ごみが多く、家庭系ごみは推計でも減少していく見込みなので、アクションプランを作成する上で、市民が直接関わっていく手段を考えていく必要がある。

個別施策において、「③環境教育の充実と推進」の中で、環境教育を大学生に訴えるよりも下室賀最終処分場等の上田市のまちづくりの問題を訴えた方が響くのではないかと。そうすると、「②積極的な啓発活動」の方に反映させた方が分かりやすいのではないかと。

(事務局) 中身を精査して御提示する。

(委員) 剪定枝木収集について、マンションに住んでいる方は剪定枝木を出さないの、市の予算で実施するのは不公平である。ごみ集積所で収集するのではなく、拠点回収でいいのではないかと。例えば資源物回収の一環として住民の方がやってもいいのではないかと。農村部は軽トラが一家に1台あるが、市街地はないかもしれない。

(委員) 長野市も無料で回収していないのではないかと。資源物回収は無料でやっているが、それは違うと思う。

- ・目標達成のための施策について原案どおり承認

## (2) 今後開催日等について

- ・資料に沿い、鈴木ごみ減量企画係長から今後の審議の予定等について概要を説明

(会 長) 第4回は「平成29年11月20日(月)午後1時30分から、上田クリーンセンター」、  
第5回は「平成29年12月19日(火)午後1時30分から、上田クリーンセンター」  
としたい。

(委 員) 承知。

(事務局) 第5回終了後、「ごみ処理基本計画」のみパブリックコメントをかける予定。  
第6回は「平成30年1月24日(水)～1月26日(金)」を予定しているので、御承  
知おきください。

(委 員) 承知。

(3) その他

(事務局) 「ごみ処理基本計画」と「ごみ減量アクションプラン」の整合を図るため、ごみ処理基  
本計画の内容が変更になる可能性があるので御承知おき願いたい。

(委 員) 承知。